

### 1 調査結果の分析

平成21年度東京都「児童・生徒の学力の向上を図るための調査」の結果では、第4学年の算数は全体の点数が都平均「72.3」ポイントよりも比較的高かった。内容別正答率では、「数と計算」「量と測定」「数量関係」がおおよそ確実な習得となっていた。観点別正答率では、数学的な考え方について「積の概算から積の見積もりを求める」問題で都平均より4ポイント低かった。日常的に見通しをもって論理的に考える習慣を身に付けさせる学習への改善が必要である。

#### <関心・意欲・態度>

今回の調査から、算数の授業では、文章や図表、グラフ等から解決に必要な情報を正確に取り出したり、読み取った内容を知識や技能と照らしながら十分に問題の意図や理由を推論したりして解決していく意欲や態度が不十分であることが分かった。言語活動において、自分の考えを他者へ説明する活動を充実していかなければならない。

#### <数学的な考え方>

2位数×1位数の例を基にして、乗数、被乗数を近似する3位数×1位数の計算では、積の概算を行って積を見積もる問題であるが、全体の点数が都平均より下がっている。筋道立てて順序よく考え、既習事項を活用して課題解決を図ることが大切である。数を概数にする方法をよくとらえていないことが分かった。

#### <技能>

「1/10の位までの小数の減法の計算」や「整数の除法の計算」の問題は、都平均より8ポイント以上正答率が高いものの、正答率が60%と低い傾向にある。計算の処理の仕方が分からなかったことが考えられる。

#### <知識・理解>

長方形の周と一辺の長さの関係を理解する問題において、都平均より1.6ポイント正答率が高いものの正答率が41.2%と低かった。長方形の性質を理解していないことが分かった。



### 2 授業改善の方策

#### ◎ 言語活動の充実

言語活動の面から授業計画を見直し、具体物を用いたり、言葉、数、式、図を用いたりして考え、説明する活動を取り入れた授業を計画的に行う。

- ・ 日常生活から問題場を設定し、基礎的・基本的な内容を重点に取り上げるようにし、数学的な考え方、思考力を高める授業づくりをする。児童が新たな性質や考え方を発見し、見通しをもって課題を解決する授業を行う。
- ・ 問題を的確にとらえ、解決に必要な情報を正確に取り出し、既習事項を活用して問題解決を図る学習を推進する。反復練習させる指導（同じ学習内容の反復練習）を計画的に展開していく。
- ・ 図形の性質を理解させるために、普段の授業の中で図形の線を色別にして視覚的に捉えさせたり、正しく用語を理解させたりして図形の性質が分かる授業を行う。



### 3 補充的・発展的な学習指導

- ・ 単元の終末の時間や夏の学習会を使って、知識・技能を確実に習得するよう、学年の段階に応じた反復を意識した学習指導を行う。
- ・ 言語活動の充実を図るため、式、図、数直線などを用いて自分の考えを説明する活動などを実施し数学的な考え方や思考力を育てていく。